

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成】
2 実施対象者	<p>泉高等学校</p> <p>英語科 第1学年 (男子 15名・女子 25名)</p> <p>英語科 第2学年 (男子 10名・女子 29名)</p> <p>英語科 第3学年 (男子 12名・女子 28名)</p> <p>海外研修参加生徒 (普通・英語科 1学年 男子 11名 女子 28名)</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(英語科 1・2学年 異文化理解)</p> <p>② 行事名(英語科 2学年 研修旅行 英語科 1・2学年 イングリッシュキャンプ 普通・英語科 1学年 海外研修)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名(英語科 1～3学年 英語科発表会)</p>
4 目標(ねらい)	本校の英語科における様々な教育・学習活動を通じて、日本文化への理解を深めるとともに、異文化理解・国際交流に主体的に取り組む態度を養う。
5 取組内容	<p>(1) 5～6月の2年生英語科の異文化理解の授業において、日本と諸外国との類似点・相違点と諸外国のオリンピックとの関わりについて調べ、プレゼンテーションソフトを活用し英語で発表した。その後、8月28日の英語科発表会において、代表生徒が保護者・他校生等を前に発表を行った。内容に関して英語で質疑応答も行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>similarity</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>Olympics</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>Liechtenstein</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Japan</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

6 主な
成果

(成果)

今年度の実施に関する生徒対象のアンケートを実施した。

(2月, 英語科1~2年生)

〔項目〕

1. 授業以外で, 英語で交流する機会を今後も多く経験していきたい。
2. 高校卒業後も英語を通じて, 国際交流や異文化交流に努めていきたい。
3. オリンピック・パラリンピックはスポーツの競技力向上だけでなく, 国際交流や異文化理解のきっかけとしても, 意義があると思う。
4. 東京オリンピック・パラリンピックにおいて, 英語力を生かしてボランティアなど何らかの活動をしてみたい。

A (良く当てはまる)

B (だいたい当てはまる)

C (あまり当てはまらない)

D (当てはまらない)

2学年

	A	B	C	D
1	69%	28%	3%	0%
2	64%	28%	8%	0%
3	69%	25%	0%	6%
4	47%	32%	7%	14%

(昨年度2学年)

	A	B	C	D
1	48%	30%	18%	3%
2	48%	36%	6%	9%
3	42%	52%	3%	3%
4	39%	27%	15%	18%

1学年

	A	B	C	D
1	62%	28%	10%	0%
2	49%	41%	10%	0%
3	49%	36%	15%	0%
4	18%	46%	28%	8%

(昨年度1学年)

	A	B	C	D
1	68%	32%	0%	0%
2	68%	24%	8%	0%
3	68%	29%	3%	0%
4	37%	37%	24%	3%

(分析)

どの項目においても概ね肯定的に回答している。各学年間の元々の意識の差や、学年ごとの指導のしかたの差もあるので一概に昨年度との比較はできないが、昨年度1学年から、その一年後にあたる本年度2学年へは高い水準のまま推移している。新1年生にはオリンピック・パラリンピックの開催と国際交流とのつながりが、理解できていない生徒がまだ少数いるようである。

昨年度・今年度は、「英語で日本文化を発信し、異文化理解・国際交流にも積極的に取り組むこと」に重点をおいてきたが、実際に活用する場面として、オリンピック・パラリンピックをさらに意識させていきたい。

普段の授業や各種行事などでの英語コミュニケーション活動などでは、高いモチベーションで前向きに能力を向上させようという態度が見られる。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	英語科を有する学校として、授業内での英語学習のみならず、様々な行事などで、グローバルなコミュニケーションツールとして、自分の考えや意見を英語で伝えたり、やりとりをしたりする機会を年間通じて多く取り入れている。活動の中では、間違いを恐れず、積極的に意思疎通する態度を培うと同時に、相手の文化背景を考慮することや、自分の持っている文化背景を意識して、丁寧にやりとりをする努力をすることがよりよいコミュニケーションを生むという意識付けをしている。
8主な課題等	本校の特色を生かして、英語教育を通じた日本文化と異文化・国際理解の促進を目標としてきたが、例えば、体育の授業でもニューススポーツなどにも取り組み、オリンピック・パラリンピックへの理解を深め、それを英語で外部に発信する活動等を取り入れていけば、更に意識が高まると考えられる。
9来年度以降の実施予定	今年度と同様の事業は継続し、体育科においてニューススポーツなどにも取り組み、さらにオリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせたい。